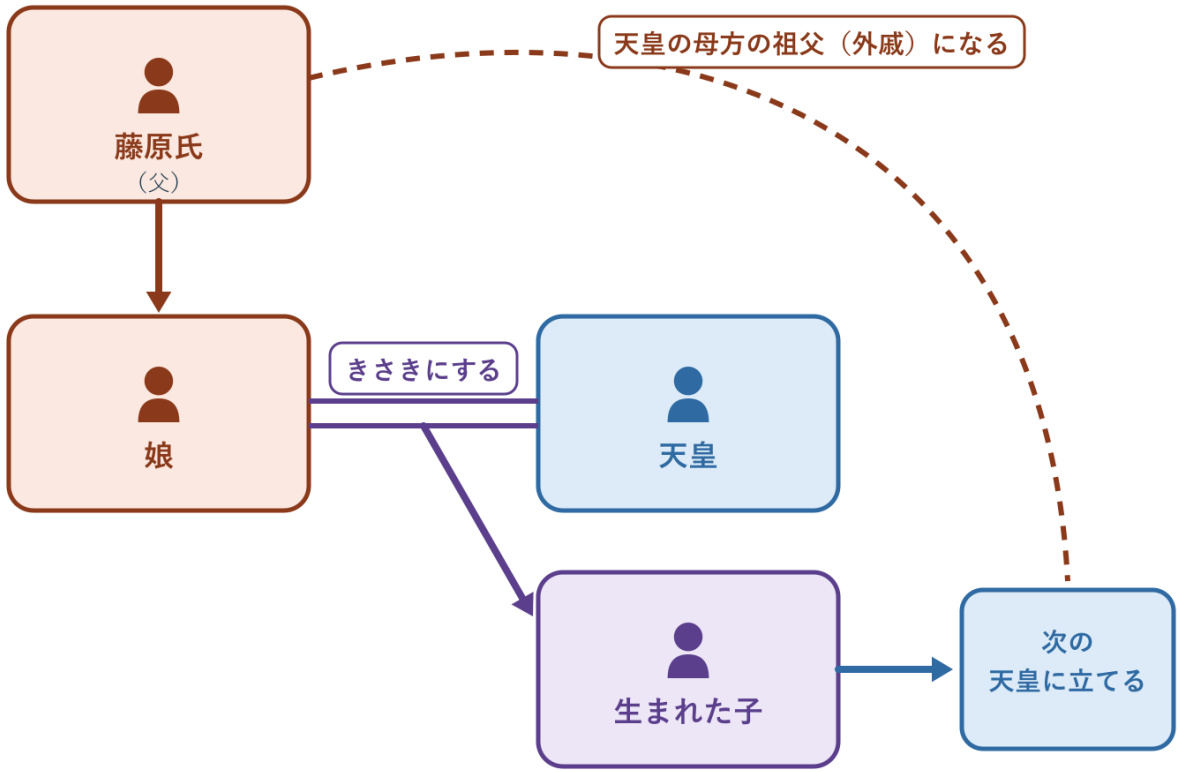
摂関政治のしくみ

藤原氏は、天皇とのどのような関係を使って政治の実権をにぎったか

天皇との関係（模式）



藤原氏が就いた地位

摂政（せっしょう）

天皇が幼いとき、
天皇に代わって政治を行う

関白（かんぱく）

天皇が成人したあと、
天皇を助けて政治を行う

9世紀後半から始まり、
11世紀前半の藤原道長・頼通の
親子のころに最も栄えた。
（摂政・関白による政治＝摂関政治）

当時、幼い天皇は母方の家で育てられることが多く、母方の祖父が強い力をもった。
藤原氏は、地方の豪族などから多くの荘園の寄進を受けて、大きな経済力をもった。

人物は役割を示す記号で、特定の人の姿ではない。親子・婚姻の関係は代表的な形を単純にした模式。